
神さまの憂鬱

フレジェ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神さまの憂鬱

【Zコード】

N4142Q

【作者名】

フレジH

【あらすじ】

『神様』がいた。その『神様』は、ある法則を定めた。世界はその法則に沿つて動き出した。結果、荒れた。その世界は荒れに荒れた。それを直すために、様々なものによつて『神様』は都合よく作り上げられた。その結果、小さな『神さま』と、不良みたいな天使のお話。前書きをよくお読みの上、どうぞ。

(前書き)

作者はギリシャ神話や日本などのありとあらゆる『神』への知識が豊富ではありません。なので作中の『神』は作者のオリジナルキャラクターとして捉えていただけだと精神的に楽です。また、この小説はあくまで世間一般に言われている『神』に対して作者が思ったことを、『神さま』と天使を登場人物として定め綴つたものですので、他の作者様方の作品等に登場する神とは全く関係ありません。またまた、作中のある台詞に関して気分を害される可能性がありますので、「神様系やだなあ」と思われる方はコーラーーンをお勧めいたします。

以上です。問題のなれそな方は、どうぞ。

「もう嫌だつ……」

天界。神聖なる神々と天使たちが暮らす、光に満ち満ちた世界。その世界の最上界。豪奢な神殿の巨大な椅子に座る、輝く金の髪を持つた少年が吼えた。

「もうやだもうやだもひやだ…… 何で某がこんな思いをしなくちやなんねえの……？」

少年がもう四人ほどは座れそうな椅子に浅く腰掛けている少年は、両手で頭を抱えギヤンギヤンとわめく。髪と同じ金色の瞳は、しつかりと潤んでいた。すると、少年の前に幾枚もの翼を携えた女性が現れる。女神かと見紛うその美しい天使は、真っ白な長い髪を揺らし、たおやかな腕を伸ばして、少年の頭へと芸術品のような手で、触れる。

「おじつせえな。まあた言葉遣い変になつてんじやねえか弁えろー。」

「いだだだだだ

「つたく、もうちょい自覚持つてくんねえか？ てめえがしつかりしてくんねえとこつちも困るんだよ」

ギリギリと音がなりそつなほど強く掴んでいた手を離し、少年が

手で掴まれた頭を押さえるのを見届けると、イライラした様子で天使は髪をかき上げた。その桜色の唇から、ドスの利いた声が紡ぎだされる。

「んでえ？ まだ吹つ切つてねえの？」

• • • • •

「・・・はあ、カミサマが聞いて呆れるぜ」

心底呆れた表情でそう吐き捨てた天使は、腕を組んで椅子に座る小さな少年を見下ろした。その言葉に、俯いていた少年がキッと顔を上げる。

「ああそうさ、そんなもんなんかわかんねえよ。わかりたくもない
ね」

「だったら……！」

鬼気迫る表情で天使に言い詰める少年は、瞬きした一瞬で変わった天使の顔を見て、口を噤んだ。

「だったら？　だったらなんだよ、口出しするなど？　そういうわけにもいかねえんだよ、こつちはよ。・・・てめえは神だ。俺は神の補佐をしなくちゃならん。天使だからな」

再び俯きそうになつた少年は、天使に乱暴に髪を掴まれて無理矢

理顔を上げられる。その時、至近距離に近づいた天使の顔を見て、瞳に浮かんでいた反抗の色が消えた。天使は続ける。

「俺はあくまで神の補佐をするだけだ。神はてめえだ。最初に言つたはずだぞ、やめることは出来ないと。だがてめえは選んだ、決めたんだ。決めたんだろ？ 決められてしまった世界を見届けると」

ドスの聞いた声で天使はそう言いながら、少年を見つめる。少年は見つめ返しながら、確かに見た。その天使の瞳に浮かぶ、慈愛と哀れみと申し訳なさと、・・・決意を。

「先代も、先代による責任も関係ない。てめえは、神なんだ。神に決められた法則によつて流れる世界の、神なんだよ。神とは作り出され、縛るもの。全てはてめえに収束し、ろ過され、世界に浸透していく」

ゆつくつと手を離して膝をつき、椅子に腰掛けた少年を見上げた天使は、神によつて与えられた色の瞳で少年を射抜く。唇を噛み締めて、少年は輝く色の瞳で天使を見つめた。地面に着かない、短い足が頼りなさげに揺れる。

「てめえは、神はその座に座り続けなければならない。そうすることで世界はやつと巡回するんだ」

それを聞いた少年は諦めたように頷こうとしたが、再び大量に送られてきた声に目を見開き頭を抱え、叫ぶように言つた。

「・・・だが、・・・つでも、だけど、耐えられない、耐えられねーんだ！！」

その際合わせられていた視線は少年が目をきつと瞑つたことで遮られ、それを期に天使は僅かに目を伏せた。

「某は何もしてねーのに…！ みんなつ・・・！」

『神様は残酷だ！』『俺は神様に嫌われるんだろうな』『神様は不公平だ、酷い！』『神様は私たちを見て楽しんでるんじょーね』『勝手に運命を決めやがって・・・！』『神様、どうしてこんな酷いことをするのですか？』『あいつは願いなんて叶えちゃくれないさ』『見てろよこの野郎！ お前の思い通りにはならない！』『神様なんていないよ、信じない。だって・・・』

「『神さま』は何時だつて悪役だ！！！ 何もしねえよ！？ 願いを叶える力なんてものはない！！ そして悪いことがあればそれを仕掛けたのは『神さま』なんだつてさ！！ はは、某の所為なのかよ！？ そして！ 何も出来ないとわかれば勝手に頼れない発言をするんだ、ああくそ、なんて身勝手な！！ 勝手に怨まれて、勝手に憎まれて、某は、某は・・・！」

「・・・」

「ほんとほつ・・・！」

光の雲が、零れていいく。

「しあわせに、したくてつ・・・・・！」

溢れた靈の泉は、ただひたすらに滾々と湧き続ける。

止まることは、無い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4142q/>

神さまの憂鬱

2011年4月3日11時28分発行